

2019年度5月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成31年4月26日（金）午前11時00分～11時35分
場所 市役所2階 第1委員会室
出席 市政記者クラブ10社

会見内容

1. 話題提供（2項目）

1. 2018（平成30）年度のスポーツ合宿の受け入れ状況について

- 最初の話題です。

2018（平成30）年度のスポーツ合宿の受け入れ状況についてです。

昨年度の合宿受け入れ件数は58団体で、人数では1,707人、滞在延べ宿泊数で10,119泊になっており、統計を取り始めた平成13年以降で過去最高を記録したところであります。

来鉦いただいている団体からは冷涼な気候と施設環境の充実が評価されており、これらを強みとして引き続きおもてなしの心でお迎えし、支援をしていきたいと考えております。
- 今年は、プロランナーに転向したマラソンの川内優輝選手が、6月24日（月）から8月20日（火）までの日程で鉦路合宿を予定しています。9月にカタールのドーハで開催される世界陸上競技選手権大会を目標に、鉦路を拠点に練習を行います。
- 川内選手につきましては、鉦路での滞在中に、地域の子供たちへの実技指導のほか、ご自身の体験を踏まえた、鉦路滞在の魅力を発信したいとお願いしており、鉦路の応援団として活躍していただけるものと期待しております。
- 他に、今年12月末から来年1月上旬には、第92回日本学生氷上競技選手権大会（インカレ）が開催されます。各大学チームでは調整を兼ねた直前合宿が計画されているということで、これまで以上に件数が増加するものと期待しております。
- また、8月中旬には、亜細亜大学硬式野球部の鉦路キャンプに合わせました、タンチョウリーグ in 鉦路の3回目の開催が決定しております。こちらには、読売ジャイアンツ3軍や福岡ソフトバンクホークス3軍の他、強豪社会人野球チームが昨年同様来ていただけるということでありまして、期待しております。

こちらの試合の方は、観戦料が無料となっておりますので、多くの方にご観戦いただきたいと思います。また改めてスケジュール等については発表していきたいと考えております。

2. 「釧路みなとオアシス」の登録について

- 続きまして、2点目であります。「釧路みなとオアシス」の登録についてです。
- 「みなとオアシス」とは、「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、国土交通省が港の交流施設や旅客ターミナル、緑地などを活用した交流拠点を対象に認定する制度で、このたび、釧路港の耐震・旅客船ターミナル、MOOなどの周辺エリアが「釧路みなとオアシス」として、今年5月1日（水）付けで、登録されるということが決定し、登録地については、全国で128カ所となります。
- この「登録証交付式」が、5月15日（水）に、EGGの中で行われます。
- 「登録証交付式」の際の記念イベントとして「ヒートボイス」によるミニコンサートの開催を予定しているところでありますので、皆さんに参加していただければと考えております。
- 今年のクルーズ客船については、16回の入港を予定しており、そのうち初入港の船が、4隻予定されています。5月1日（水）がスタートということになっております。この中でも色々な関係イベントを展開していきながら、しっかり定着させ、また利用していただけるようにしていきたいと考えております。

2. その他（1項目）

1. ゴールデンウィーク10連休の業務案内のお知らせについて

- 最後に、ゴールデンウィーク10連休中の対応についてです。
- 明日4月27日（土）から5月6日（月）まで10連休となり、市役所等も閉庁となります。
- 閉庁期間が長期になるということで、5月3日（金）に、市役所等の一部の窓口を開庁いたします。
- 主な開庁窓口としましては、市役所の戸籍住民課、国民健康保険課、医療年金課、こども支援課、納税課、阿寒町・音別町行政センターの市民課、保健福祉課、阿寒湖温泉支所。また、上下水道料金について、上下水道部庁舎お客様サービスセンター、阿寒・音別上下水道課などとなっております。
- その他の施設の連休中の開庁・開館日につきましては、釧路市ホームページや広報くしろ5月号にてお知らせしておりますので、よろしくお願ひいたします。

3. 質疑要旨

(質問)

- ・ 以前より釧路湿原マラソンに参加されている川内選手が、今回、釧路で合宿を行い、また、釧路の魅力を発信いただく予定というお話ですけれども、釧路市応援大使に任命する等のお話はないでしょうか。

(市長)

- ・ 川内選手につきましては、釧路に毎回来ていただいております。来られなかったのは、世界陸上ロンドン大会の時だけでした。これまで、8回程来ていただいております。今後、釧路地方陸上競技協会などからも、色々な声が出てくるのではないかと考えております。まずは、今年の釧路での合宿の際には、子どもたちへの実技指導の他、釧路の良さといったことを発信していただけるということです。

(質問)

- ・ 元号が変わる5月1日の婚姻届の対応については、どのようにになりますか。

(市民協働推進課長)

- ・ 連休時の受け付け体制については、通常の休日時の体制と同じ防災庁舎守衛室に2名体制でいます。なお、申請者が増えてきた際には、戸籍住民課職員を増員し、受け付け対応を行います。

(質問)

- ・ みなとオアシスに登録認証された後の、具体的な取り組みの予定について教えてください。

(みなと活性化主幹)

- ・ 「釧路みなとオアシス協議会」という運営団体を設立しており、今後は、この運営団体が、大型クルーズ船のおもてなし活動を柱として取り組みを行っていく予定となっております。

(質問)

- ・ 新生クレインズについて、今回、釧路の市民クラブとして新しく生まれ変わって、その辺りの意識はいかがでしょうか。以前のクレインズと新しく変わったということはありませんでしょうか。

(市長)

- ・ 日本製紙クレインズの約70年の歴史を踏まえて、氷都釧路として、アイスホッケーの優秀な選手を輩出してきた釧路市にとりまして、クレインズの存在は極めて大きなものであり、地域の宝でありました。廃部ということを受け、日本製紙様は、選手として活躍できることを第一に、また今までの歴史を踏まえて、釧路をホームにという形で、さまざまな検討やお声をかけいただきました。このたび、東北海道クレインズという形で、釧路の中でスタートしていく流れができたということは、市民にとっても、また、私たちにとりましても、大変ありがたいことだと思っております。まさに、これからがスタートということですので、ぜひ、しっかりと応援していきながら、盛り上げていけるようにしていきたいと考えております。

(質問)

- ・ 新生チームの年間運営費が3億円と見込んでおり、まだ、半分ぐらい必要であるということですが、市として、何か応援できるようなことはありそうでしょうか。

か。

(市長)

- ・ 以前に、茅森代表とお会いした時にお話しましたが、私どもも、日光や八戸など、色々な地域の状況を見ていく中で、どのような形で進めていくことが良いのか内部でも相談をしていたところであり、このたび、鉦路市をホームタウンということで進めていただくということで、リンクの使用料であるとか、そのようなところを安定的にしっかりとできるように進めていくということは検討していますというお話をさせていただいているところです。

(質問)

- ・ 今回は、募金だけでも、ファンから1,000万円を超える額が集まっており、その他にも、氷都鉦路というだけに、ふるさと納税の活用等、アイスホッケーファンのためにという集め方もあるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

(市長)

- ・ これから、どのような形で進めていくのかということは、当然、アイスホッケー連盟や、体育協会等とも相談していきます。まさに、スタートした第一歩でありますので、しっかりと歩いていける仕組みとを色々と考えながら、また色々なご意見を伺いながら進めていくということでもありますので、色々な手法が出てくるかと考えております。

(質問)

- ・ 秋田県の能代市は、バスケットボールが有名で、そのバスケットボールを通じた地域振興という形で、まちづくりを10年間隔で考えているようですが、例えば、鉦路市は、ホッケータウンみたいな形での計画や、今回のタイミングを機会にそのようなお考えはありますでしょうか。

(市長)

- ・ どのように進めるかということは、日本におけるアイスホッケーの位置付けといったものを含めていくことが重要だと思っております。ご案内のとおり、今、鉦路はアイスホッケーのメッカということで、全国の中学生の大会を国と連携しながら13年間行っています。全国のアイスホッケーを愛する子どもたちが、この試合を目標にしており、その上で、このようなプロという形を進めていく時に、国内リーグもクレインズを含めて4チームですから、どのように進めていくかということがあるかと思えます。そのような意味では、鉦路はまさに、子どもたちを含めアイスホッケーのメッカとして取り組んでおりますし、当然、市民にとっては、アイスホッケーの優秀な選手を輩出している氷都鉦路という思いが強い訳でありますので、このようなところを合わせなら進めていくということが重要になるだろうと思っております。やはり、本当にスポーツというものをこれからどう進めていくかということになると思えます。昔はどちらかといいますと企業型という形であったものが、まさしく地域に根差した形ということで、野球も、バスケットも、色々なものが進んでいるところでもあります。まさしく、アイスホッケーも世界の中で見ていきますと、70~80カ国と、大変世界的に人気があるスポーツな訳でありますので、そのようなことも踏まえながら取り組んでいきたいと思えます。そのためにも、新たに鉦路に、東北海道クレインズがアイスホッケーチームとして存在するという事は、極めて大きいことだと思っておりますし、また、しっかりと一緒になって進めていきたいと考えております。

(質問)

- ・ 試合を見に来る方は、本州などからも来られたりしており、観光も楽しんで帰られるということで、街にお金を落としてくれるということがあると思いますが、これらの経済効果がどれくらいであるか数字的なものはわかりますか。

(スポーツ課次長)

- ・ そのような方々がいるというお話は聞いておりますけれども、なかなか、実情は掴んでおりません。

(市長)

- ・ これからのスポーツのあり方というものは、試合を応援するというものもありますし、若しくはその試合の時間空間といったものを楽しむということもあります。やはり、外国の方を見ていきますと、試合の応援なのですが、そこに行って、時間を楽しんで、時間を使うというものもあります。まさに、これからのアイスホッケーをどのように楽しんでいくところがポイントになってくると思っています。

(質問)

- ・ そのような時間の空間を楽しませるためには、まずは足を向かせるということも非常に大切だと思うのですが、市民に聞きましたら、関心はあるけれど、アイスアリーナまで遠くて行けないという声もちらほらあります。例えば、試合が終わった際には、夜ということで、バスが無く、タクシーしかないなど、アクセス面が何とかならないかと思っています。

(市長)

- ・ ここは、色々とこれから取り組んでいくことになると思います。施設の時間空間を作っていくためには、色々な制約等もあります。今まで色々なことを行っていたのは、そこで試合をやる目的なのですが、これからは目的が違うということも考えて、目的を色々作っていく、一つの目的のためだけに一つのことをやるということではなくて、そのような形の中で進めていくということもありますし、その中に、今言ったような利便性といったものも考えていかなければいけないと思っております。車等であれば、自家用車の保有率が高いところと、そうでない地域はどうするかであるとか、アジアリーグの時には、お酒を飲んだら、帰りの運転は出来ないといったこともありますから、そのようなことを相談して取り組んでいくということが重要だと思います。

(質問)

- ・ 東北海道クレインズがアジアリーグに参戦していくにあたって、行政として支援するというものを検討中というものについて、シーズンが始まるのは9月ぐらいだと思いますが、どれぐらいのタイミングで、結論を出そうというお考えでしょうか。

(市長)

- ・ もちろん9月の開始までに支障のないようにとは思っております。

(スポーツ課次長)

- ・ 今の段階では、新生クレインズは、仮承認の状況です。今後、夏頃に向けて正式に承認をいただけるということですので、その前には、新生クレインズ側から、正式な市に対する支援に係るお話があると思います。先方側のスケジュールに合わせる形になると思いますけれども、8月の夏場までには、きちんとした形を作らなければならないと考えております。

(質問)

- ・ アリーナのネーミングライツの契約は、日本製紙との契約が続いているということで、この契約は存続したままで、新しい新運営会社に日本製紙から運用について供与されるような形になるのか、それとも、市と直接、新会社との間で、新たな契約を結ぶ形になるのでしょうか。

(スポーツ課次長)

- ・ 現在は、日本製紙と釧路市の契約になっておりまして、それは来年の3月までは契約どおり継続することとなっております。途中で、内容を切り替えるということはありません。その中で、日本製紙側は、色々な特典を持っているのですけれども、これについては、地域への還元であったり、新会社への還元であったりということを考えているというお話は聞いております。

(質問)

- ・ 来年3月の契約が終了した後は、今度は新会社と釧路市との契約になるのか。

(市長)

- ・ これは、今の契約のネーミングライツがどのようになっているのかというところがポイントになるのですが、ネーミングライツの中で、色々な仕様があるのですが、その中に例えば、アイスホッケーのリンクそのものについては、減免等が入っております。その部分については、日本製紙様の新会社の支援になってきますし、それ以外の部分については、市と結びながらトータル的に支援をしていこうという感じですが、そこを活用していきながら、どこまで延びるかというものがありますが、契約が終了した場合には、今、お伝えしたところを継続しながら進めていく形を考えております。

(質問)

- ・ 今、結ばれているネーミングライツで、減免されている使用料以外の部分を、今後、市が全てお支払いしたいというお考えでいらっしゃるということでしょうか。

(市長)

- ・ 私どもも、支援の方法について、他都市の状況を見てきまして、当然スポット的な対応もあるかもしれませんが、ランニングコストも重要なものになってくると思っており、その中で、我々がどのようなことができるのかといった時に、ホームリンクとして活用していただけるということであれば、練習等の使用については、しっかり進めていこうということです。アジアリーグの試合の際の使用については、アジアリーグ側との関係で違うものですから、そのような形で、選手の方々が、しっかり練習できるような環境を、この釧路をホームとして担っていけるような形を取ろうというものであります。

(質問)

- ・ 要請があれば、基本的には、期待に応じていきたいというお考えでいらっしゃるのでしょうか。

(市長)

- ・ 当初より、代表に対しては、お話をしておりますし、我々としては、そういうことを考えておりますというお話をさせていただいております。それに対しては、先方からも感謝をさせていただいております。要請があればというよりは、我々としては、こういうことだというお話をしていきながら、そこで、多くの方の協力をいただき、進めていこうということで、そのできるだけ分母というものを小さくしていく形のところが、我々行政の方として一緒にできればと考えております。

(質問)

- 先日の23日に、就任前の鈴木知事とお会いになって、改めて新知事への期待であるとか、釧路市との関係について、どのような姿勢で臨もうというお考えでいらっしゃるかお聞かせください。

(市長)

- 鈴木新知事は、就任前に、釧路の方に来ていただきまして、また、先日も、釧路コールマインの方にも視察をいただいたところであり、私どもが道と取り組んできたところを、大変強く意識していただいているもので、大変うれしい思いでいっぱいであります。あわせて、今、道の方と進めております釧路駅周辺のまちづくりの件もありますことから、今、進めていることにつきましては、大変熟知され、また前向きに捉えていただいているので、市としては、本当に力強いと思っております。その上で、38歳という若さで、これからの北海道につきましては、本当に困難が山積している訳ですけれども、それらに果敢に色々とチャレンジしていただけますし、北海道で一体的に進んでいくということを期待しているところであります。これは、国と道、つまり北海道が北海道179の自治体と連携していきながら、国に対して北海道をどのように活用していくのか、北海道をどのようにこれからの日本の国全体のために発展させるのかという観点で進めていける知事と認識しておりますので、一緒になって色々なことを進めていければと思います。私の方からは、道内の各振興局は本当に大切であるので、さらに力を入れていただきたいという話をさせていただきました。釧路管内には、釧路市内に振興局があって、振興局と共に色々と情報を出し、相談をしていきながら、本庁との話を詰めていくことが、一番必要なことだと思っております。また、振興局で勤務した方々が、本庁に戻って、釧路の色々なことを知りながら進めていただけるという点や、釧路市、釧路管内の応援団になっていただけるということで、振興局は重要なものだと、昔からお話をさせていただいていたのですけれども、改めてそのようなお話をさせていただいたというものが、ご挨拶をした時のお話です。

(質問)

- 今年、釧路港が、開港120周年の年ということで、ポスターコンクール等を始めるご予定を伺っていましたが、その他に記念事業的なものはありますでしょうか。

(みなと活性化主幹)

- 現在、開港120周年につきましては、港まつり会で検討中ということであります。